					1					
科目番号		0065		科目区分	一般 / 必修	<b>修</b>				
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位:	2				
開設学科	¥		斗(一般科目)	対象学年	3					
開設期	+	通年	+-/	週時間数	2					
教科書/			交改訂版現代文B』)/参考図書は適	<u> 国紹介する</u>						
担当教員		時田 紗緒	<u></u>							
到達目		= /	#サレ笠老の子まも四畑レマギロナフ	マルギマナフ						
2、文学	的な文章を	読んで、登場	構造と筆者の主張を理解して説明する 人物の心情や情景描写を理解して説明 を理解して適切な表現で文章を書くこ	することができる						
レーブ	`リック			T		T				
			理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの	,	未到達レベルの目安(不可)				
扁理的な と筆者σ ことがて	D主張を理解	で、文章構造 して説明する	論理的な文章を読んで、文章構造 と筆者の主張を理解して自分の意 見・考えを持つことができる	論理的な文章を読んで   と筆者の主張を概ね理   きる	、文章構造 解し説明で 	論理的な文章について構造と筆者 の主張を理解していない				
の心情や	(文章を読ん) では できる	で、登場人物理解して説明	文学的な文章を読んで、登場人物 の心情や情景描写を理解して自分 の意見・考えを持つことができる	文学的な文章を読んで、登場人物 の心情や情景描写を概ね理解し説 明できる		文学的な文章について登場人物の 心情や情景描写を読みとることが できない				
	切な表現で	表現技法を理 文章を書くこ	漢字や語句他、文章表現技法を理解して適切な表現で文章を書くことができる	漢字や語句他、文章表 ね理解して文章を書く る		適切な表現で文章を書くことができない				
学科の	到達目標」	頁目との関	係							
I 人間 選案 II II 国際	践性 2 Ⅱ 🥻	人間性 実践性 国際性								
教育方	法等									
既要		近代以 、 さらに 他者の考	降の文章を対象とする。論理的な文章 文章を読んで自分の意見を持ち論を立 えとの比較ができるようにする。また	・文学的な文章について てることを目標とする。 、漢字・語句の知識の基	、文意を読 <i>み</i> そのために、 礎を身につい	み取り自分の言葉で説明できること 意見・論を書く機会を多く設けて けて適切な文章を書けるようにする				
受業の進	重め方・方法		本で進め、積極的に意見交換や発表の な取り組みを重視し、レポート課題	時間を設定する。						
注意点		ある。 ・配当分の 当分の 6 i ・教科書、	・評価は定期試験30%、達成度試験30%、提出課題等課題40%(授業内課題を含む)の割合で評価する。合格点は60点である。 ある。 ・配当分の評価点が6割に満たない場合は、再試験を実施することがある。但し、再試験を受けた場合の評価点は、配 当分の6割を上限とする。 ・教科書、ノートは毎時間、国語便覧、国語辞典等は、必要に応じて適宜準備をすること。 ・予習は必須ではないが、復習を行い授業の定着をはかること。							
	屋性・履ん	1 1 10%	以須ではかいか、復習を行い授業の定	着をはかること。	<b>冝準備をする</b>	ること。				
		タトの区分	必須ではないか、復習を行い授業の定	着をはかること。	<u>囯</u> 準備をする	3こと。				
_ , ,	ティ ノフー	<u>修上の区分</u> ->グ	1	着をはかること。	<u>国</u> 準偏をする	T				
	ティブラーニ		必須ではないか、復習を行い授業の定 ☑ ICT 利用	着をはかること。	<u>国</u> 準備をする	T				
受業計			1	着をはかること。	直準偏をする	T				
受業計		ニング	1	着をはかること。	□準備をする □ □ ○	T				
受業計		週	☑ ICT 利用 授業内容	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。	この到達目標	T				
受業計		週	☑ ICT 利用	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ごる 授業な	<u>(</u> の到達目標 )目的・方針 <sup>:</sup>	□ 実務経験のある教員による授業 等を理解している				
受業計		ニング 週 1週	☑ ICT 利用 授業内容	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ごで 授業の  客観的	<u>の到達目標</u> の目的・方針部	□ 実務経験のある教員による授業 等を理解している				
授業計		ルフグ 週 1週 2週	<ul><li>☑ ICT 利用</li><li>授業内容</li><li>ガイダンス</li></ul>	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。 授業  客観 解で  客観  客観	この到達目標 D目的・方針: 可論理的な文語 である 可論理的な文語	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理 章について筆者の主張を読み取り理				
授業計		ル 週 1週 2週 3週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。 授業  客観的解で  客観り解し、 客観り	この到達目標 D目的・方針 可論理的な文語 可論理的な文語 自分の意見 可論理的な文語	□ 実務経験のある教員による授業 等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理				
授業計		週 1週 2週 3週 4週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任 未来世代への責任 未来世代への責任	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。 授業  客観的 解で  客観り 解し、 客観の 解で  客観の	での到達目標の目的・方針に 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理 ・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理 ・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理				
授業計	画	週 1週 2週 3週 4週 5週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任 未来世代への責任	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。 授業  客観的 解で 客観の 解し、	で到達目標の到達目標の目的・方針に 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論のでは 可論ののでは 可能のでは 可能のでは 可能のでは 可能のでは 可能のでは 可能のできる。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能ので。 可能のでき。 可能ので。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理 ・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理 ・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理 ・言について筆者の主張を読み取り理 ・論を持つことができる				
	画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任 未来世代への責任 未来世代への責任	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  ③ 週ご。  ② 寝観の  客観の  客観の  客観の  客観し、 客観の  客観し、 客観の  客観し、 客観の  客観の  客観の  客観の  のの  のの  のの  のの  のの	の到達目標の 回動・方針で 可論理的な文語を 同論理的な意見の 同論理的の意見の 同論理的の意見の 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を 同論理的な文語を	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・言について筆者の主張を読み取り理・言について筆者の主張を読み取り理・こついて筆者の主張を読み取り、自				
	画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任 未来世代への責任 未来世代への責任 言語が見せる世界 言語が見せる世界	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  ③ 週ご。  ② 寝観・  客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・	この到達目標の 回動・方針で 可論理的な文語を 可論理のの意は 可論のである。 可論のである。 可論のである。 可論のである。 可論のである。 可論のである。 可論のである。 可論のできる。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能のでき。 可能ので。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の。 可能の	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記でかてきる。 章について筆者の主張を読み取り理・記でいて筆者の主張を読み取り理				
	画	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	図 ICT 利用 授業内容 ガイダンス 未来世代への責任 未来世代への責任 未来世代への責任 言語が見せる世界 言語が見せる世界 言語が見せる世界	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  ③ 透隔授業対応  ③ 授業  客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ 客観・ なった。 とのでは、 なった。 とのでは、 なった。 とのでは、 なった。 これ。	での到達目標の到達目標の目的・方針に 可論理的な文語を 可論理的な文語を 可論理的の意見の 可論理的の意見の 可論のでの意見の 可論のでは 可論のでは 可論でのでは 可論でのでは でのででのできる。 でのででのできる。 でのででのできる。 でのででのできる。	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記ついて筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り、自者に伝わるよう表現することができる				
	画	選 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	図 ICT 利用  授業内容  ガイダンス  未来世代への責任  未来世代への責任  未来世代への責任  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  達成度試験 テスト返却/近代文学史	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。 授業  客観で 客観で 客観し、 客観で 客観し、 客観で の解し、 の解で の解し、 の解で のが、	この到達目標の到達目標の到達目標の目的・方針の記念。 可論理的のないでである。 可論のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記のいて筆者の主張を読み取り理・でしいて筆者の主張を読み取り理をでしていて筆者の主張を読み取りをきていてできる。				
	画	選 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	図 ICT 利用  授業内容  ガイダンス  未来世代への責任  未来世代への責任  未来世代への責任  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  達成度試験  テスト返却/近代文学史  「こころ」(夏目漱石)	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。  授業  客解で 客解で 客解し、 客解で観し、 客解で観し、 客解で観り、 のの これ。 近代文学解析	この到達目標の到達目標の到達目標の目的・方針に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記ついて筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取りできる。 をを確認する。 かな流れを理解し説明できる ものについて登場人物の心情や変化を				
授業計	画	<ul><li>週</li><li>1週</li><li>2週</li><li>3週</li><li>4週</li><li>5週</li><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li></ul>	図 ICT 利用  授業内容  ガイダンス  未来世代への責任  未来世代への責任  未来世代への責任  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  「こころ」(夏目漱石)	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。	この到達目標の到達目標の到達目標の到達目標の目的・方針では、文章を記憶をは、えきをは、えきをは、文章をは、えきをは、えきをは、えきをは、えきをは、えきをは、えきをは、えきをは、えき	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記ついて筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り、自者に伝わるよう表現することができるとかな流れを理解し説明できるとかな流れを理解し説明できると (*)について登場人物の心情や変化を表していて登場人物の心情や変化を				
	画 1stQ	<ul><li>週</li><li>1週</li><li>2週</li><li>3週</li><li>4週</li><li>5週</li><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li><li>12週</li></ul>	図 ICT 利用  授業内容  ガイダンス  未来世代への責任  未来世代への責任  未来世代への責任  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  「こころ」(夏目漱石)  「こころ」(夏目漱石)	着をはかること。  ② 遠隔授業対応  過ご。	での到達目標の到達目標の到達目標の到達方針の記念。 回論理のののののののののののでは、文字では、文字では、文字では、文字では、文字では、文字では、文字では、文字	□ 実務経験のある教員による授業等を理解している 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・論を持つことができる 章について筆者の主張を読み取り理・記ついて筆者の主張を読み取り理について筆者の主張を読み取り、自者に伝わるよう表現することができる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。かな流れを理解し説明できる。 は、)について登場人物の心情や変化を				
	画 1stQ	<ul><li>週</li><li>1週</li><li>2週</li><li>3週</li><li>4週</li><li>5週</li><li>6週</li><li>7週</li><li>8週</li><li>9週</li><li>10週</li><li>11週</li></ul>	図 ICT 利用  授業内容  ガイダンス  未来世代への責任  未来世代への責任  未来世代への責任  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  言語が見せる世界  「こころ」(夏目漱石)	着をはかること。    図 遠隔授業対応   週ご   週	での到達目標の到達方針の可能を対している。 の可能をはいる。 の可能をはいる。 の可能をはいる。 の可能をはいる。 のでは、これでは、できます。 のでは、これでは、できます。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のできまする。 のででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	□ 実務経験のある教員による授業 実務経験のある教員による授業 実施 実施 といて いて 筆者の主張を読み取り 理・論を持つことができる 章について 筆者の主張を読み取り 理・論を持つことができる 章について 筆者の主張を読み取り 理・論を持つことができる 章について 筆者の主張を読み取り 理について 筆者の主張を読み取り 理について 筆者の主張を読み取り ほど について 筆者の主張を読み取り きどんだっさ 変を確認する。 かな流れを 理解し説明できる きんじこついて 登場人物の心情や変化を もんして ひきゅう しゅう はい こう できる をない ない な				

		15i		[27		漱石)		文学的な文章(小説)についる	て登場人物の心	情や変化を		
		16週		前期定期試験				理解し、自分の意見・論を持つことができる これまでの授業内容を確認する				
		1週	<u>-</u>	「である」ことと「す			 3」こと	客観的論理的な文章について筆者の主		読み取り理		
		2週		「でま	ある」ことと	「オス」こと			解できる 客観的論理的な文章について筆者の主張を読み取り理 解できる			
		3週		「でま	ある」ことと	「オス」スト		客観的論理的な文章についる	客観的論理的な文章について筆者の主張を読み取り理解し、自分の意見・論を持つことができる			
	3rdQ	4週		現代E	日本の開化	客観		客観的論理的な文章につい <sup>-</sup> 解することができる	客観的論理的な文章について筆者の主張を読み取り理			
	- : <del></del>	5週		現代日本の開化				客観的論理的な文章について筆者の主張を読み取り理解することができる				
後期		6週		現代E	日本の開化			客観的論理的な文章について筆者の主張を読み取り理解し、自分の意見・論を持つことができる				
		7週		近代文	文学史・「舞	姫」の文体と時代背景		擬古文の特徴を知り、小説の時代背景を理解し説明することができる				
		8週		中間語	式験	これまでの授業内容を		これまでの授業内容を確認す	認する			
		9週		「舞如	臣」(森鷗外)	)	擬古文の特徴を知り、小説の内容を読解する きる		ることがで			
		10词	—————————————————————————————————————	「舞如	臣」(森鷗外)			 と読み取ることができる				
		11近	_	「舞如								
		<b>12</b> 返		「舞如	臣」(森鷗外)	)		登場人物の心情とその変化を読み取ることができ				
	4thQ	13近	<u> </u>	「舞如	臣」(森鷗外)	)		時代的背景を踏まえ、現代と作中時代とのものの見 を比較し違いを理解し説明することができる		る		
		14边	<u> </u>	「舞如	臣」(森鷗外)	)		時代的背景を踏まえ、現代と作中時代とのものの見 を比較し違いを理解して説明することができる		)ものの見方 ごきる		
		15边	<u> </u>	「舞如	臣」(森鷗外)	)		作品を通して文学的文章に対して自分の意見 適切に表現することができる		見を持ち、		
		16週		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				これまでの授業内容を確認す	 を確認する。			
	アカリニ			)学習	内容と到達	1				IEW.		
分類			分野		学習内容	学習	内容の到達目標		到達レベル	授業週		
						論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,後1,後 2,後3,後 4,後5			
						論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の 妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,後1,後 2,後3,後 4,後5			
						文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3	前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15			
基礎的能力	人文・ 科学	社会	会国語		国語		常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,後1		
						類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	前3,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15,後 1,後2,後 3,後4,後 5,後6,後7			
						社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。		3	前1,前3,前 5,後9			
						専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。		3	前4,前7,後 15			
						課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。		3	前3,前5,後 6,後7			
						相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思い や考えをまとめることができる。		3	前3,前5,後 6,後7			
						新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理 するための手法を実践できる。			3	前3,前5,後 6,後7		
評価割合			-				1	T				
-				期試験			達成度試験		<u>合計</u>			
総合評価割合 一般的能力			30				30		100			
一般的能力							30	40	100			